

## 下. 下. 戦記

西尾 毅

我が国立には富士山を眺めるのに格好の場所がある。その名も富士見通り。晴れた日に、南西に延びたその道路に立つと、真正面に雄大な富士の姿を捕らえることができる。我が家はこの富士見通りがら脇へ5分程入った所にあつたので、夕方には夕焼けに来た富士を拝みながら帰路につくことになる。

最初から話がローカルになつてしまった。以上の文章は要するに下. 下. のことを書くぞという宣言文である。昨年の記録として残したものに予備合宿もあるが、局部的にポテンシャルの高い部分もあり、誤解を招くので妥当ではないと考えた。一言付け加えておくならば、あの事件は私のその後の数ヶ月を支配したがあくまで附録であり、予備合宿自体は楽しいもの<sup>1</sup>であつたと考えている。

さて下. 下. を書くとは言つても、ここにレース展開を忠実に再現しようというのではない。実際、そうした展望は頂にゐる方が有利なわけで、私としては書ける立場にない。ここでは3回にわたる下. 下. の中から思い出の名場面を。

- いよいよ明日だ。我等東工大陣の中でアンカーの大役を果たすのは俺か古木たろう。レースのことを思うとバーテープを巻く手に自然と力が入る。側ではゲータレはこんなもんたんととしきりにやっている。しかし今日のドライブは仲々

おもしろかった。

(専大T.T. 前夜 YHにて)

- 一勢スタートは迫力があった。ポジション争いの末、俺の先行でレース開始。曾我部が視界から消え、疾水が出始めた頃に突然、ファイトの声。「あ〜、これで一人か。」と思うといじけるしか道はなかった。
- 5合目付近か、もう皆Goalしているたさうななどと考えながら登っていくと、届た!! 幸いこちらは風下(下)、こっそり近づいて一気に勝負だなどと考えつつ必死に登る。抜いた!! と思った直後、予想していた反応はなく、やや拍子抜け。「何をやるとんじゃ〜、それじゃ2時間30分は切らんぞ〜」と、2、3度牽制した後最後の坂に向かうと突如として吉木が猛攻を仕掛けてくる。結果は敢無く敗退、直接の敗因は最後の坂に33×24ではあったことだが、ややハムられた感もないではない。(と書いてみた。)

(以上 専大T.T. にて)

- スバルラインは今回で3度目の挑戦。2時間20分を目標に最初からスパートしたが、やはりオーバーペースでは登れない。2合目まで富田さんに引張ってもらったが、3合目手前でダウン。薄暗く緑がかった視界の中に星が2つというのも、サイクリング中では恐らく初めての体験だろう。浦島と昼寝をして出発。

- 4合目を過ぎた辺で、喜田氏、鈴木氏と会う。意外な再開であった。3人で休んでいると、エノモトさんから古木は3時間を切れないうつという情報が入る。記録更新を断られ、古木のことなど念頭になが、たのたが、この知らせを聞いてもう一休み。後になってみればこれが敗因だった。

(以上 秋のT.T.より)

- 場所を奥多摩有料道路に移した第3戦。志波という新人の加入もあって、激戦が予想された。T.T.の為に開発されたトランク輸送を駆使して下見を行なった結果、当日は55分前後の争いであろうと思われた。

- いよいよスタートである。今回は序盤戦で決着が着いた感があった。最初はかどくスローペースに感じられ、「もしかしたらこういう和やかな雰囲気でも済むかもしれない。」一寸とした心の油断だった。たちまち疲労感が全身を襲い、みるみるうちに離れていく。やがて志波に抜かれ、一人取り残されることになってしまったのである。

- こうなったら月夜見第1までに追いついて逆転を狙うしかない。しかし志波の姿は見え隠れこそすれ、ついに一度も並ぶことはなかった。駐車場で人目を意識して、よし、やるといふ顔をつくってみせる。全くもう、若乃花でもあままいに。阿呆か…

(以上 奥多摩T.T.より)

さて、とにもかくにも昭和53年は、T.T.ゲームの内に幕を閉じた。結果として当方の3戦全敗に終わったが、勝敗はともかくとして、この一連のT.T.が少なくとも次の意義をもっていたと考えたい。

1. 形はどうあれ、専らESC AのT.T.に多数の参加が得られたこと。ESC AラリーやOBラリーを逃げ回っている自分としては言いにくいが、まず参加することが対外活動の第1歩であると思っている。
2. 話のタネとなったこと
3. T.T.にも必ず個人々々のベースがあるということが、実感できたこと。

逆に悔やまれることは

1. リキ無しを証明してしまったこと。(ズルッ)
2. T.T.に遅れられて、クラブランを反やおうそかにしてしまった感があること。

要は、クラブ員のまとまりをどうつけていくかというところで、2度と、こういう間違いの起こらないことを望みます。

ところで、今年の春あたりに、富士登山を兼ねて、スバルラインに再度アタックしたいと思っております。どうしても2時間30分は切っておきたい。古木君、いかがですが、と不気味な誘いをかけてみたりして。